

単元名

安心してらせるまちづくり ～佐方の町親切プロジェクト～

【関連のあるSDGsの目標】



【単元の目標】

自分達の住む地域にはいろいろの人が暮らしていることを知り、間接的なインタビューや話を聞いたり、インターネットでの調べたりしたことを新聞でまとめ、友だち・保護者への発信の学習を通して、課題を追究し、自分にできることを考え、相手や目的に応じて、実践していこうとする。

【連携諸機関・人物】

保護者
地域の盲導犬ユーザー

◆学習活動の実際（全47時間）

学習活動	他教科等との関連
<p>〈課題の設定〉4時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなにやさしい町とは何か考える。 ・佐方の町 人にやさしいプロジェクトを立ち上げ、どんなことを調べ、誰にどんな方法で伝えていきたいか話し合う。 <p>安心してらせるまちづくり～佐方の町 人にやさしいプロジェクト～</p> <p>〈情報収集〉22時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校探検をして、やさしい設備やサポートを探し、理由を考える。 ・スーパーマーケット（フジ）の写真見学・間接インタビューを通して、やさしい設備やサポートを見付ける。 ・盲導犬ユーザーの話を聞いて、体の不自由な人のサポートの仕方の大切さや願いを感じ取る。 ・学校の登下校の中や家族でのお出かけの中でやさしい設備やサポートを探す。 ・インターネットで「バリアフリー」や「自分が見つけた人にやさしい設備」について、詳しく調べる。 	<p>【社会科】「店ではたらく人」の学習での地域のお客さんがたくさん来るひみつをさがすことに通じて、店のサービスや地域貢献の考えを知り、関連させた。</p> <p>【国語科】「言葉でつたえ合う」の「さまざまなたえ方」で手話や点字、記号の意味を学習した。</p> <p>【国語科】「パラリンピックが目指すもの」の学習を通して、体の不自由ないろいろな人に気づき、また文章の要約の仕方を活用した。</p>
<p>〈整理・分析〉3時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた人にやさしい設備やサポートの共通点や相違点をグループで話し合う。 ・もっと調べてみたい人にやさしい設備やサポートを自分の希望も伝えながら、グループの中で多様な意見が出るように協力して活動する。 	<p>【国語科】「ローマ字」の学習を通して、ローマ字のコンピューターへの入力に活用した。</p> <p>【社会科】「店ではたらく人」の学習での「かべ新聞にまとめ」を関連させた。</p>



〈まとめ・表現〉18時間

- ・グループで調べたこと、調べてみて分かったこと、感じたことを新聞にまとめる。
- ・地域の一員として、自分たちにできることを考え、標語を作る。
- ・参観日に保護者やほかのグループの児童に新聞・標語を発表する。



【国語科】「外国のことをしようかいしよう」において、話の組み立てや話し方の工夫を学習に活用した。

【社会科】「くらしをまもる」の学習での「自分たちでもできること」を関連させ、自分の考えをまとめた標語作りを活用した。

【児童生徒の感想・振り返り】

- ・バリアフリーは、体の不自由な方にとっては命のようなものであり、安心してくらするために必要なものであることに気付いた。
- ・これからもバリアフリーについて調べていきたいし、もっとユニバーサルデザインを探してみたい。
- ・自分たちもバリアフリーに助けられている。バリアフリーがない時に困っている人がいたら、直接自分が助けたいと思う。
- ・盲導犬に出会ってかわいくて声をかけたくなくても、気が散らないように我慢しようと思う。
- ・けがなどで誰がいつ車いすに乗るかわからないから、身近にいたら手助けしたい。
- ・困っている人を助けるのは勇気があるけど、勇気を出して、声をかけられるようになりたい。
- ・これから自分はお年よりに親切にしてあげること、人にやさしく接するようにすること、やさしく手伝ってあげることががんばりたい。

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】



【児童生徒の変容】

- ・身近な学校内や店内、登下校の中から人にやさしい設備やサポートを自ら探した。
- ・社会科の「店ではたらく人」をまとめる新聞作りでまとめ方や発表の仕方を練習した。
- ・初めて、パソコンでインターネットの情報を得た。
- ・参観日に保護者へ発表した。

- ・なぜそこにあるかなど、理由を考えることにより、地域にはいろいろな人が暮らしていることに気付いた。
- ・班の中で友達の考えを聞きながら、より分かりやすいまとめ方や発表の仕方を考え、工夫する表現になるように活動することができた。
- ・目的をもって、一人一人が積極的に調べ、多くの情報から自分の考えを深め、自分のできることのヒントを得ることができた。
- ・相手意識をもって活動することにより、意欲的に取り組むことができた。

【今後に向けた「改善点」】

- ・今年度はコロナ禍の影響で出来なかったが、安心してくらするまちづくりについて学ぶため、直接的な活動を経験させる必要性を感じた。福祉施設（あいプラザ）や市民図書館、市民センター、駅などへ直接行き、調べる活動、また、調べたことを各施設で直接インタビューし、さらに探究し深めていく活動ができればより身近に感じ、より学習を深めることができると考える。